

「認知症を正しく理解し、地域で支える」フォーラムに参加しての感想

母は介護認定4の認知症。今日まで介護保険制度をフルに利用してなんとか生活してきた。今日も妻は徘徊防止マットに何度か呼び出されつつ朝を迎えている。

長谷川先生の話は分かりやすく楽しめた。パネラーの人たちも懸命さが伝わってきた。日頃デイケアやショートステイのお世話になっているだけに苦勞が偲ばれる。

本質は行政の方針によって現場が揺らぐことにあると思う。当初参入障壁を低くして大量にデイケアセンター等を作らせた。数が揃ったところで条件を厳しくする。なんで金儲け主義のコムスンが福祉をやるのか。

介護に携わる人たちはいい人、やさしい人、思いやりのある人が多いのだろう。でも、低賃金で重労働だ。国は人の善意を最大限に利用しようというのだろうか。

この今のシステム・国が作ったシステムで本当に継続可能かどうか疑問が大きくなるばかりだ。この福祉システムを利用するためには利用する側にもある程度の経済力が必要だ。本当に必要な人は利用できないのではないだろうか。

事業者には有利なシステムは、金儲け主義の経営者を呼び込んでしまう。だからといって条件を厳しくすれば善良な事業者まで運営が厳しくなってしまう。また、働く人に善人が多ければ簡単に搾取される結果にもなるのではないか。

営利目的ではなく、かつ働く人にそれなりの収入が保障されるようなシステムを作らないと未来は明るくならないのではないか。介護の世界の外にもう少し目を向けた活動が本当は重要なのではないかと思った。システムの中であがいても限界はすぐに来てしまう。

喜多 國隆

母との長い介護生活に於て公的サービスを受ける事が出来る有難さを身を持って感じております。ディやショートステイの利用が無ければ今日迄やって来れなかったと思います。とっても感謝しているので出来るだけ問題点を見ないように過ごして来ましたが、今回の講演会のように異業種間での交流が活発になる事で、私たち介護家族も希望や提案がいえるようになればどんなに有難い事でしょう。ディの延長でお泊り出来る施設があったり、施設間でサービスの質に差が出来ない事を望んだり、長生きの親をうらめしく思う事の無い社会であって欲しいです。

ちなみに母は88才認知症・介護度3。50代から躁鬱病を持っていたのと加齢から来る物忘れとで認知症との区別がつかず、今が判らなくなる不安や怖さを理解出来ず、何故、何故、どうして、の毎日で何時も母を叱っていました。私自身認知症の正しい知識が乏しかったのです。認知症をハッキリ診断され「ああ、そうだったんだ」と納得出来、全て受け入れようと腹が決まったように思います。父の死後母を引き取って18年目を迎えます。

谷 亜紀子

この有名な長谷川先生の講演を楽しみに会場へ足を運んだのですが、認知症の方のこともともに悩み、地域で支えあうために何をすべきかを考え、手伝いたいと思う多くの介護関係者、高槻市民が多数集まったことは印象的でした。長谷川先生の「認知症の人のケアでは、たとえ専門職であっても一人で抱え込まないこと、いろんな角度からその人を捉えることや外からの支援を求めること」の重要性を心に留めたいと思います。

講演後に引き続きパネルディスカッションが行われましたが、医師、介護に携わる専門職、家族会、行政等多方面にわたったパネラーは、それぞれの立場からの問題提起、提案等をされました。短時間ながらも具体的でエキスがたっぷりの濃い内容であり、もっと聞いて会場とのディスカッ

ションする時間があればと思いました。認知症の有無に関わらず安心して生きがいのある生活（「誰かの役に立てる」ことだと私は思うのですが・・・）を送りたいという思いは誰もが一致していることでしょう。このフォーラムがきっかけとなって、参加者一人一人の点が線となり、高槻全体をカバーできる面となって、認知症になっても大丈夫な町づくりの第一歩を踏み出せるのではと確信しました。

ともすれば、「高齢者」「認知症」というと暗いイメージとなりがちですが、「70歳からがすばらしい」と言える明るい高槻の町づくりに私自身も何か手伝えることがあれば・・・と思える有意義な会でした。

高槻赤十字病院 居宅介護支援事業所 安井真由美